

薬理学 実習

1 単位 3 年 (後期)

Pharmacology

吉本 勝彦・教授 / 歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学), 石川 康子・准教授 / 歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学), 水澤 典子・助教 / 歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学)

岩田 武男・助教 / 歯学科 歯科薬理学講座 (分子薬理学), 森谷 真紀・非常勤講師 / 香川小児病院, 伊井 節子・非常勤講師 / 老健施設平成アメニティー

【授業目的】講義で学んだ薬物を、実際に動物あるいは摘出臓器に作用させ、その効果を観察することにより、生体の機能と薬理作用の関係を具体的かつ総合的に把握する。

【授業概要】実験動物の取り扱い方、薬理学的実験法を習得するとともに、薬物の効果を確認する。

【授業形式】実習

【授業方法】実習

【授業場所】第2実習室

【授業テーマ】講義で学んだ静的な知識を動的に捉え直し、知識を統合する。

【履修上の注意】実習全回出席と全実習レポートの提出をもって、受験資格を認定する。

【到達目標】 (<> 内はコアカリ対応)

1. 実験機械・器具の使用方法を説明できる。
2. 実験動物の苦痛を認知し、動物実験の必要性和倫理的配慮について説明できる。
3. 麻酔薬の効果を説明できる。
4. 血圧に影響を及ぼす薬物の効果を説明できる。
5. 唾液分泌に作用する薬物の作用を説明できる。
6. 鎮痛薬の作用を説明できる。
7. 薬物代謝酵素の多型について説明できる。

【授業計画】

	大項目	中項目	到達目標	担当
1.	安全衛生	実習を中心とした学生生活における安全衛生について説明・討議を行う。	1, 2	全員
2.	イントロダクション	機器・器具の操作法や使用上の注意点, 小動物の取り扱い方を説明する。	”	”
3.	中枢神経作用薬	麻酔薬の作用	3	”
4.	末梢神経作用薬	唾液分泌に作用する薬物の作用	5	”
5.	循環系作用薬	全身血圧に対する薬物の作用	4	”
6.	鎮痛薬	熱刺激に対する鎮痛薬の作用	6	”
7.	薬物代謝酵素	遺伝子多型の検出	7	”

8.	実習の反省	実習内容について討議する。	1-7	”
----	-------	---------------	-----	---

【成績評価】評価はレポートおよび筆記試験により行い、試験は講義 C・D の筆記試験と同時 (3 年次後期試験中) に実施する。100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。

【教科書】実習書: プリントを配付する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217365>

【連絡先】

⇒ 吉本 (088-633-9123, yoshimot@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 16:00-18:00/5F 分子薬理学・教授室))

⇒ 石川 (088-633-7332, isikawa@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 16:00-18:00/5F 分子薬理学・准教授室))

⇒ 水澤 (分子薬理学, 088-633-9137, mizusawa@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 16:00-18:00/5F 分子薬理学・第4研究室))

⇒ 岩田 (088-633-9137, iwatakeo@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (月~ 金 16:00-18:00/5F 分子薬理学・第4研究室))